

ActiveImage Protector for Hyper-V Enterprise

導入事例：東芝エレクトロニクス台湾社様

ActiveImage Protector の導入で、システムのダウンタイムをほぼなくしたデータ管理が可能に。バックアップ時間と容量も大幅短縮。

53GBの容量のバックアップ時間は
わずか4分、圧縮率も半分以下に

日本東芝グループの子会社である東芝エレクトロニクス台湾社の主事業は、セミコンダクター製品の販売です。そのERPシステムは、日本の本社で管理されていますが、複数のアプリケーションサーバーを使用し、4台の物理サーバーに20台のHyper-V仮想サーバーを稼働させています。

General Advanced Technology (GATI) 社から協力を得ながら、Acer Software Service 社からのアドバイスにより、データのバックアップ作業を単純化し、無停止で稼働するデータベースや仮想マシンの復元時間を短縮するため、ActiveImage Protectorを導入するように勧められました。ActiveImage Protector を使用することで、物理マシンと仮想マシンをバックアップ、復元することができます。データベースは増分バックアップを毎時定期的に行うことで、データベースに常時行われる変更をトラッキングし、IT 部門の作業負担を削減することができます。

ActiveImage Protector を使ってデータベースとOSの増分バックアップを実行するとバックアップタスク処理はおよそ4分で完了します。バックアップ対象の総容量は約53GBです。重複排除圧縮機能を有効にしてバックアップを行うと、バックアップイメージのファイルサイズは23.6GB、圧縮率は2分の1以下でした。

物理サーバーと仮想サーバーを 同時に丸ごとバックアップ

東芝エレクトロニクス台湾社では物理サーバーと仮想サーバーを複数台使用しています。これまで、物理サーバー上のデータベースをバックアップする場合、シャドウコピーを使ってコピーを作成し、そのコピーをテープドライブにバックアップしていました。データベースのサイズが30GB を超えると、テープドライブの書き込み速度が遅いため、バックアップの処理は業務時間後に実行し、アプリケーションサーバーのパフォーマンスを低下させないようにしていました。

しかし、IT部門は日々増大するデータのバックアップ作業に対処できなくなっていました。



バックアップ作業に対処できなくなっていました。

社内システムの運用上の要件を満たすため、データベースを高速でバックアップするだけでなく、物理サーバーと仮想サーバーを丸ごと同時にバックアップできるソリューションを探していました。東芝エレクトロニクス台湾社のIT部門副社長、Yang Jianwei 氏は「従来のように1日1度のみバックアップを行っても、一旦システムに障害が発生するとデータベースに障害が起り、会社の業務運用に深刻な悪影響を及ぼします。そのため、毎時定期的なバックアップを実行し、作成したバックアップファイルをハードディスクドライブに保存したいと考えました。また、物理環境と仮想環境全体をバックアップし、重複排除圧縮機能を搭載したソフトウェアを採用することで、保存先の容量を大幅に節約できると考えました。」と話しています。

競合製品を総合的に評価した結果、すべての要件を満たしたのは、ActiveImage Protector だけでした。2013年9月に完了した評価結果をもとに、ActiveImage Protectorを当社のバックアップリカバリソリューションとして正式に採用することに決定しました。

標準でデータの重複排除機能を搭載

ActiveImage Protector の特長の1つとして、標準でデータの重複排除機能を搭載しています。競合製品では、データ重複排除機能は有償のオプション機能として追加できますが安くはありません。アプリケーションの運用環境によっては、バックアップデータの保存先の容量を60~70%を節約できます。これまでは、31GBのデータベースファイルをコピーするのに13分かかっていました。一方、ActiveImage Protector

の増分バックアップ機能を使えば4分でバックアップできます。

バックアップ処理が高速である上に、ActiveImage Protectorのバックアップイメージマウント機能を使ってイメージファイルからファイルを簡単に選択し復元したり、作成した物理マシンのイメージを仮想環境に移行できます。

東芝エレクトロニクス台湾社のIT部門担当ディレクター、You Rui bang氏は「これまで、データの復元にはかなりの時間がかかっていました。ActiveImage Protectorを導入後は、障害発生時でもバックアップファイルをマウントして、短時間にアプリケーションサーバーを正常に稼働させることができるようになりました。ActiveImage Protectorのマウント機能は本当に便利です。」と語っています。

Hyper-Vホスト上の全ての仮想マシンを エージェントレスでバックアップ

ActiveImage Protector では、個々の仮想マシンにバックアップソフト（エージェント）をインストールすることなく、すべての仮想マシンを直接バックアップ、Hyper-Vホストのバックアップイメージを作成できます。仮想マシンがクラッシュした場合でも、コンピューターを稼働させたまま、ReZoom 機能やSHR (Seamless Hot Restore) 機能を使ってバックアップファイルから仮想マシンを即時に起動できます。そのため、運用は継続して行うことができます。

ActiveImage Protector では、標準で搭載されたレプリケーション機能に加え、リモートのDRセンターにバックアップイメージファイルを定期的にコピーするよう設定することもできます。ローカルサーバーで障害発生しても、リモートのバックアップイメージファイルからシームレスに仮想マシンを即時に起動して運用を可能にすると同時に、仮想マシンの復元も行うことができます。

東芝エレクトロニクス台湾社では、バックアップリカバリソリューションとしてActiveImage Protector を導入したことで、データベースや情報システムを健全に保護することができています。その結果、IT 部門では、システムのダウンタイムをほぼゼロにしたデータ管理を行えるようになりました。

お問い合わせ先